

日本原子力学会 第 128 回倫理委員会  
議事録

1. 日 時：2021 年 12 月 3 日（金）9:00～11:45
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、伊藤委員、大家委員、金谷委員、佐藤委員、菅原委員、手柴委員、中野委員、中村委員（委員 13 名中 11 名出席）  
中山特別委員
4. 資 料：
  - 倫 128-1 前回議事録（案）
  - 倫 128-2-1 倫理委員会活動計画
  - 倫 128-2-2 倫理委員会役割分担表
  - 倫 128-3-1 2022 年春の年会セッションについて
  - 倫 128-3-2 2022 年春の年会企画セッション提案書
  - 倫 128-3-3 講演者候補者リスト
  - 倫 128-4 東電核セキュリティ事案等を踏まえた倫理委員会としての検討について（案）
  - 倫 128-5 欠番
  - 倫 128-6 安全文化と安全管理について
5. 議事概要：
  - (1) 前回議事録について  
神谷幹事から資料 128-1 に基づき説明があり、一部記載の適正化等の修正を行ったうえで、最終版とすることとした。
  - (2) 活動計画および役割分担、20 周年企画等について  
福家副委員長から資料 128-2-1、128-2-2 に基づき説明があり、議論を行った。  
確認事項、主な議論は以下のとおり。
    - <活動計画>
      - ・東電事案を踏まえた見解検討のタスクを追加した。
      - ・20 周年企画の学会誌連載企画の状況を追記した。
      - ・12/6 に技術倫理協議会のシンポジウム開催予定。
    - <役割分担>
      - ・東電事案等を踏まえた見解検討の担当委員を追記した。
      - ・これに伴い、理事委員は負担の観点からこれまで役割を分担していないが、欄としては追加した。
      - ・2022 年秋の大会企画セッションの担当も含めて、今後の役割分担はあらためて検討することとした。
    - <20 周年企画>

- ・学会誌連載企画の状況について説明があった。
- ・20周年企画シンポジウムの検討が具体化できていないので、体制も含めて、今後検討を促進する。

### (3) 2022年春の年会企画セッションについて

手柴委員から資料 128-3-1～128-3-3、その他参考資料に基づき説明があり、現在の準備状況について報告があった。確認事項、主な議論は以下のとおり。

- ・学会事務局に提出した提案書に基づき、採択されたとの連絡があった。
- ・大場委員長は3/18は都合が悪いので、日程の希望を3/16あるいは3/17であることを早急に学会事務局に連絡する。
- ・講演者については、“何を議論したいのか”を明確にしたうえで、依頼をしていくことが必要。
- ・東電事案等を踏まえると、現場に近い声、組織の閉鎖性の問題、エンゲージメントや心理的安全性の観点、志向倫理が重要だとしてもいけないことはいけないとする訴求、規制の観点からの深掘り等の議論ができるとよいのではないか。
- ・担当の手柴委員、中村委員で検討した順序で候補者への打診を進めていくこととした。
- ・委員会内からの講演者は、東電事案を踏まえた見解の検討状況も発表していくこととする。

### (4) 東電核セキュリティ事案等を踏まえた倫理委員会としての検討について

神谷幹事から資料 128-4、その他参考資料に基づき説明があり、議論を行った。確認事項、主な議論は以下のとおり。

- ・提案のあった進め方で検討を進めていくこととした。
- ・コアメンバーに追加の立候補があれば3役に連絡する。
- ・全委員の可能な範囲でのアクションとして、参考資料として共有している東電の改善措置報告書に対して、倫理委員会としての見解を検討するに当たっての訴求点、深掘りしたい点、他事業者にも水平展開すべき点などを自由に挙げて、コアメンバーによるたたき台の作成に資することとした。期限は2週間程度。
- ・2022年春の年会企画セッションでは、その時点での検討状況を発表していくこととする。

### (5) 研究機関の安全文化について

伊藤委員から資料 128-6に基づき説明があり、議論を行った。主な議論は以下のとおりで、引き続き検討していくこととした。

- ・参考としている文献は古いので、留意が必要。
- ・今後、研究職、技術職、事務職それぞれの階層モデルの構築にトライしてみる。それぞれの職種で階層モデルの LEVEL 0 に何を持ってくるかがポイントとなるのではないか。

### (6) その他

- ・委員会内のメールに対するレスポンスについて問題提起があり、今後、すべての連絡に対して、意見・コメントがある場合はその旨、意見・コメントがない場合は“なし”、それぞれ必要に応

じて理由を付記して返信することを基本とすることとした。依頼側は、メールの件名に「要確認」「要対応」など明記する。

- ・大場委員長から、委員会外の先生から倫理関連の参考図書で原子力に関する不適切な記載が散見されるとの問いかけがあったので、別途、委員会内に共有するとの紹介があった。

6. 次 回：2022年1月中旬から下旬の開催として、別途調整することとした。

以上